

俊頼髓脳 沓冠折句の歌

①沓冠折句の歌といへるものあり。
問一、「いへる」品詞分解と訳

もの名前

②十文字あることを、句の上下に置きてよめるなり。
問二、「よめるなり」品詞分解と訳

ください

③「合はせ薫き物少し。」といへることを据ゑたる歌、
問三、これをいったのは誰
問四、「据ゑたる歌」品詞分解と訳

一日の

を取り締まる

④逢坂も果ては行き来の関もゐらず
問五、「関もゐらず」の品詞分解と訳

訪ねて来ば来来なば帰さじ
問六、3つの「来」の活用形と読み方
問七、「来なば帰さじ」品詞分解と訳

様々な女御、更衣たち

⑤これは、仁和の帝の、方々に

奉らせ給ひたりけるに、

問八、「奉らせ給ひ」は下のaとdのうちのどれか
問九、敬意の方向
問十、「たりけるに」の訳

みな心も得ず、返しどもを

問十一、「みな」とは誰
問十二、仁和の帝は何を「心得」てほしかったのか

奉らせ給ひたりけるに、

問十三、「奉らせ給ひ」は先のaとdのうちのどれか
問十四、敬意の方向

その女房たちの中に

⑥広幡の御息所と申しける人の、御返しはなくて、

【丁・作者↓読者】

品詞分解 活用の行・種類・

品詞・終止形・活用形・意味
の説明

る

なり 識別②③

る

たる

ず

ば じ な

の 識別⑫⑬

たり

ける

a 謙譲＋尊敬＋尊敬

b 謙譲＋謙譲の強め＋尊敬

c 謙譲＋使役＋尊敬

d 尊敬＋尊敬＋尊敬

返し＋複数を表す接尾語

の 識別⑫⑬

薫き物を奉らせたりければ、

問十五、「奉らせ」は下のa・cのうちのどれか

問十六、現代語訳

問十七、誰が誰に薫き物を奉ったのか

問十八、敬意の方向

歌の

たしなみ

今まで

心あることにぞおぼしめしたりけると、語り伝へたる。

問十九、「おぼしめし」たのは誰

問二十、「ぞ」の結び

問二十一、「心あることにぞおぼしめしたりけると」現代語訳

問二十二、仁和の帝は何がしたかったのか

⑦「をみなへし・花薄」といへることを、据ゑてよめる歌、

問二十三、2つの「る」の文法的説明

問二十四、どこに「据ゑ」たか

は、以前に

⑧小野の萩 見し秋に似ず成りぞ増す

問二十五、以前の秋は何がどうだったか

萩を見ないで

萩はこんな

経しだにあやなしるしけしきは

問二十六、「経しだにあなや」品詞分解と訳

問二十七、「萩でさえ一年の間にこんなに目立った変化しているのだから、まして（ ）はもっと変化している。」

⑨これは、下の花薄をば、逆さまに読むべきなり。

問二十八、「読むべきなり」現代語訳

これも一つの姿なり。

問二十九、何の「姿」か

問三十、次の歌に置かれているものは

よもすずし ねざめのかりほ た枕も ま袖に秋に へだてなきかぜ

よるも憂し ねたくわがせこ はては来ず なほざりにだに しばし訪ひませ

ける

ば 識別⑨⑩

a 謙譲＋使役

b 謙譲＋謙譲の強め

c 尊敬＋使役

る

識別①②

だに

識別 程度の軽いものを

あげて、程度の重いものを類推させる。

べき

なり 識別②③